

# 医療福祉支援センター

## 1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	1 人	

## 2 教員の異動状況

小林 利彦（特任教授）（2010 年 8 月～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	13 編	(13 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

### (3) 総 説（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 女性医師支援. 医事業務 471 : 2, 2015

2. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 「新公立病院改革ガイドライン」に想う. 医事業務 473 : 2, 2015
3. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 議論の対象は 2035 年へ. 医事業務 475 : 2, 2015
4. 小林利彦 : 静岡県における「女性医師の勤務医環境等に関するアンケート調査結果」から見えること. 静岡県医師会報 No.1526 : 6-10, 2015
5. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 「データブック」の活用で現場は大混乱? 医事業務 477 : 2, 2015
6. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 7 対 1 入院基本料の厳格化に向けて. 医事業務 480 : 2, 2015
7. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 「医療事故調査制度」の今後は・・・. 医事業務 482 : 2, 2015
8. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 患者の「受療行動調査結果」を見て想う. 医事業務 484 : 2, 2015
9. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 大きな魚には多くの餌が必要!. 医事業務 486 : 2, 2015
10. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 医師の地域偏在と診療科偏在. 医事業務 487 : 2, 2016
11. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 医師・歯科医師・薬剤師調査の概況から. 医事業務 489 : 2, 2016
12. 小林利彦 : Nakama Project-地域医療の充実を目指して. 地域医療構想の策定作業は「第 2 ラウンド」へ! 医事業務 491 : 2, 2016
13. 小林利彦 : 地域の医療情報を集約することで視えること・出来ること-医療提供体制の再編に向けて-. ぶっくとらっく 24 (2) : 5-8, 2016

インパクトファクターの小計

[0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の

共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 医師事務作業補助 実務の手引き. 中村健壽 (監修) . 小林利彦(分担) . (株) 西文社. 東京, 2015
2. 実務に役立つ医療現場実践シリーズ① 電子カルテ代行入力マニュアル. 医療経営情報研究所(編). 小林利彦 (分担) . (株) 産労総合研究所. 東京, 2015

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### 4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 27 年度	
(1) 科学研究費助成事業 (文部科学省、日本学術振興会)	0 件	(0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成	0 件	(0 万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(6) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(7) 受託研究または共同研究	1 件	(180 万円)
(8) 奨学寄附金	0 件	(0 万円)

(7) 受託研究または共同研究

地域医療構想策定に係るデータ分析等業務委託、静岡県 (受託研究)

平成 27 年 9 月 15 日～平成 28 年 3 月 25 日、代表者、180 万円

#### 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	1 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	4 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	2 件
(5) 学会役員等回数	0 件	2 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 第12回国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会. 2015.7.10～11. 浜松
2. 第2回日本医療連携研究会－国立大学部門. 2015.7.11. 浜松

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 小林利彦：「増田レポート（地方消滅）」について考える - 在宅医療の視点で - . 第2回日本医療連携研究会－国立大学部門. 2015.7. 浜松

3) シンポジウム発表

1. 小林利彦：地域の診療情報を集約化することで 見えること、出来ること -Nakama Project の活動紹介-. 第65回 日本病院学会 シンポジウム2 地域で治し、支える医療を目指す取組み. 2015.6. 軽井沢
2. 小林利彦：医師事務作業補助職の キャリアデザインを考える-専門職種間の隙間業務を担うスペシャリストとして-. 日本医師事務作業補助研究会 第5回全国大会 シンポジウム「職種確立に向けてのアクション」. 2015.6. 宮崎
3. 小林利彦：地域連携室長としての医師の役割. 第12回国立大学医療連携・退院支援関連部門連絡協議会 シンポジウム5 「医療職が地域に出ていく意義」. 2015.7. 浜松
4. 小林利彦：大学病院として「地域包括ケア」に どう関われば良いのか？ 平成27年度 大学病院情報マネジメント部門連絡会議 =地域連携セッション= 「地域包括ケアを見据えた多職種間の情報連携とは？」. 2016.1. 長崎

4) 座長をした学会名

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本医療情報学会 評議員

日本医療秘書実務学会 評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成27年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受 賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

## 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 静岡県医療審議会 地域医療構想策定作業部会の委員として、「静岡県地域医療構想」の策定作業に関与した。

## 14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

## 15 新聞，雑誌等による報道

1. 「浜松健康フォーラム」キャンペーン. 2015.5.11. FM ラジオ (K-MIX)
2. SBS サンデークリニック「在宅医療について」 2015.7.21. SBS ラジオ